

目次／川口月村画「盛岡停車場」表紙／いわて自然史ノート「砂金の素顔～北上山地内で採集した砂金～」p.2-3／展覧会案内 テーマ展「絵画でたどる 19世紀岩手の風景」p.4-5／事業報告「トピック展『岩手の生き物たち』回顧録」・解説員室より「“変身”してみませんか？」p.6／事業報告「第8回岩手県立博物館まつり」p.7／インフォメーション p.8

テーマ展

絵画でたどる 19世紀岩手の風景

平成29年3月18日(土)～5月7日(日)



川口月村「盛岡停車場」(「岩手県鉄道沿線名勝図巻」より)……………もりおか歴史文化館所蔵
川口月村「盛岡停車場」(「日本鉄道陸奥地方画譜」より)……………青森県立郷土館所蔵
川口月村「盛岡停車場」(「奥羽寒図記」より)……………岩手県立博物館所蔵

明治24年(1891)、日本鉄道の上野－青森間(後の東北本線)が開通し、南北に伸びる線路を汽車が走るという新しい風景が岩手に生まれました。

駅が出来れば駅前にも新しい風景が広がります。盛岡駅と市街とを結ぶ開運橋は岩手山のビュースポットとして知られていますが、これも架橋前には見られなかった風景です。

川口月村の作品は、開業当時の日本鉄道沿線の風景を今に伝えています。

■いわて自然史ノート

砂金の素顔～北上山地内で採集した砂金～

学芸第三課長 吉田 充（地質部門）

はじめに

岩手には約5億年前からの地球の歴史が閉じ込められ、様々な地層・岩石が分布しています。これらの地層・岩石は風化・侵食のはたらきにより砕かれて川に流れ込んでいきますので、流域の地層を探る一方法として砂を調べています。

川砂には中洲に溜まる「軽い砂」ばかりではなく、礫と一緒に溜まる「重い砂」もあります。重い砂とは黒い砂鉄です。

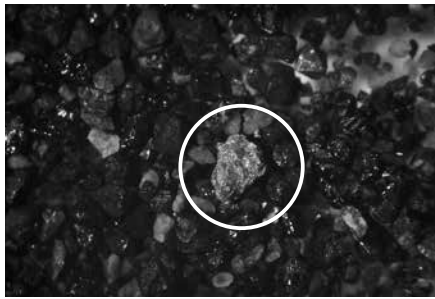


写真1 砂鉄中の砂金（白円内）

砂鉄を採集しているうちに県内には砂金を採集できる場所が予想以上に多いことが分かりました。県内には砂金を採集している人はいますが、多くの方は経験がないと思いますので、砂金はどんなものかを紹介します。

北上山地の地質

北上川の東側に並走する北上山地は、その中央部に標高1,914mの早池峰山が聳え立ち、その周囲には標高の低いなだらかな山並みが続きます。北上山地は、主に大陸の一部であった南半分と、海溝付近で押し上げられた地層・岩石が分布する北半分が合体してできています。さらにこれらの地層・岩石の一部は花崗岩類により熱変成を受けています。何気なく見る北上山地からはその生い立ちが複雑であることは考えることができません。

岩手の金山

岩手県鉱山誌（1950）によると200を超える金山がありました。鉱山とは有用な金属がとくに密集している場

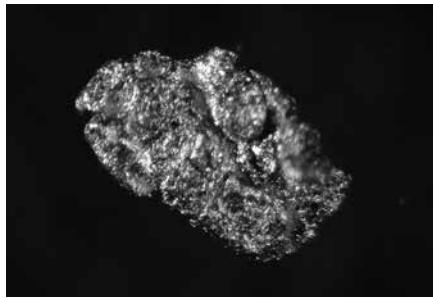


写真2 久慈市産

所ですが、採算性を考えなければ、金を採集できる場所はまだあります。鉱山史には金が採れる岩石は含金石英脈と記載されています。含金石英脈とは、花崗岩類をつくったマグマから分離した熱水が冷えて固まってできる岩石です。花崗岩類をつくったマグマが地表近くに上昇してくると、その圧力により既存の岩石に亀裂を生じさせ、その割れ目に沿って熱水が流れ込んでいきます。その熱

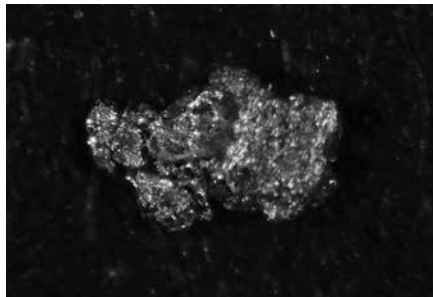


写真3 盛岡市産

水には比較的低い温度で溶ける金などの金属鉱物が含まれています。

金山の分布

北上山地の鉱山は九戸地区から東磐井地区まで分布していますが、南部北上山地に比較的多く分布します。それは花崗



写真4 住田町産

岩類の分布面積が南部の方が少し広いことと関係があるのかもしれませんが。

砂金の採集できる河川

砂金を実際に採集した河川は、北上川にそそぐ砂鉄川水系、猿ヶ石川水系、稗貫川水系、彦部川水系、乙部川水系、丹藤川水系と、太平洋にそそぐ夏井川水系、大槌川水系、盛川水系、気仙川水系、大

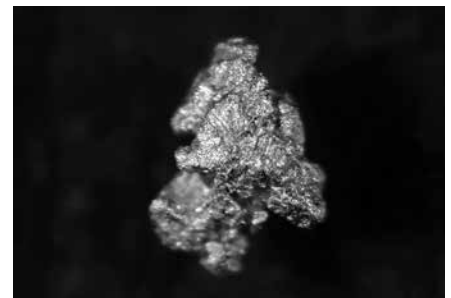


写真5 紫波町産

川水系、津谷川水系などです。名前がのっていない河川は採集できないのではなく、未調査の河川です。水系とは、水源から共通の流出口に至る一連の流路の集まりで、本流とその支流などを含みます。1mに満たない川幅の沢から10m以上の河川までいろいろな規模の河川を含んでいます。

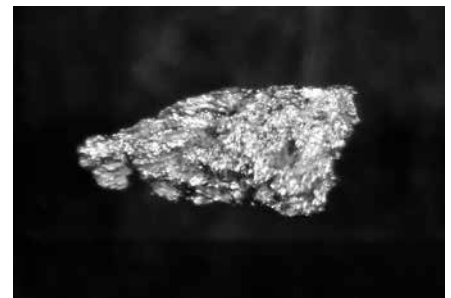


写真6 奥州市産

砂金の採集方法

砂金採りには様々な方法があります。私はカッチャ（鍬状の道具）で砂礫をすくい上げ、下にパンニング皿を敷いた園芸用の篩に入れ、これを水の中で篩って、パンニング皿に落ちた砂礫を水の中で選別します。意外に力がある作業で、そのせいでしょわか、黒い砂鉄の中に残った

黄金色の金が出てくると思わずにっころとしてしまいます。

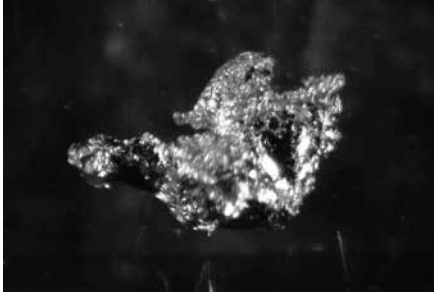


写真7 一関市室根町産

砂金の形

川原の礫は上流と下流では丸さが異なるように、砂金も供給源に近い場所と離れた場所で採集できる砂金の形が違います。前者の砂金はかどばっていて、母岩から抜けたような形のものもあります

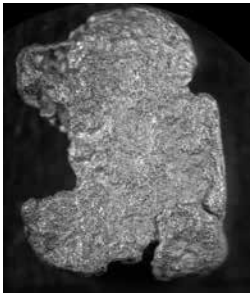


写真8 一関市大東町産

(写真7)。これに対して後者の砂金は丸みを帯びていて、いくつかの砂金がかつついたような扁平な形をしたものが多いです。中には人の形をしているものもあります(写真8)。こんな形で母岩についていたとは考えられませんが、流される間に少なくとも5つの砂金がかつついたと考えられます。

砂金のかがやき

写真9と10の輝きの違いを見てみま

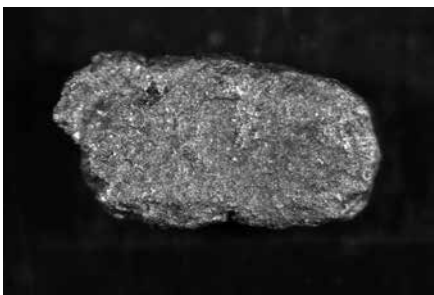


写真9 大槌町産

す。白黒写真では色の違いはよくわから

ないのですが、輝きの違いを写りの違いで読み取ることができます。金の純度が高いほど控えめな黄金色で、表面が微かな輝きの集まりのように見えます。純度が低いと、光を反射する面が広く滑らかな輝きをしています(写真10)。

砂金の大きさ

砂金は下流に流れていくうちにくっつきあうことが考えられることから、下流

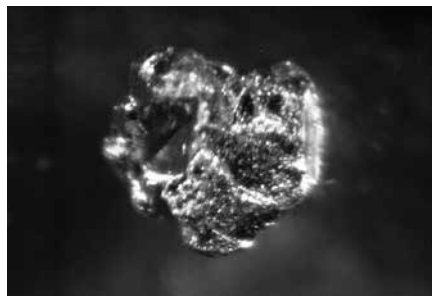


写真10 花巻市大迫町産

ほど大きい砂金になることが想像できます。もちろん運ばれる途中で剥がれて小さくなる場合もあります。今まで採集した砂金の大きさは0.5~1mmが多く、最大では約5mmです。

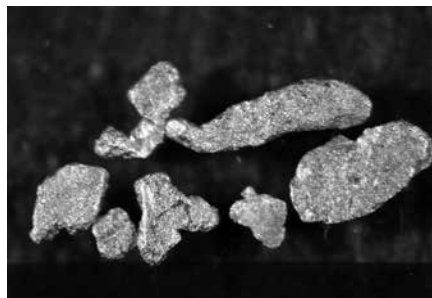


写真11 岩手町産

砂金の成分

砂金は金元素だけでできていると思われがちですが、元素分析をすると金だけでできている砂金にはあつたことがあります。ほとんどの場合、銅や鉄などが含まれます。時々、銀も混ざります。金属鉱物は金元素単独ではなく、銅や鉄の硫化物である黄銅鉱や黄鉄鉱と一緒に産出することが多いからです。

写真12は小さな沢の鉱山跡付近の支

流で採集したもので、突起がある球状の

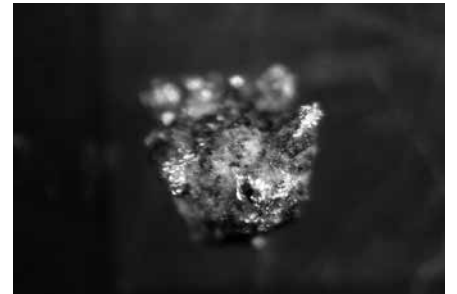


写真12 一関市東山町産

砂金です。突起の部分が金で、それ以外の球面は他の金属鉱物が多いです。大きさは約0.5mmです。この沢の下流で採集した砂金は表面全体が黄金色になり、鉄、銅元素が少なく、金元素の割合が多くなっています。

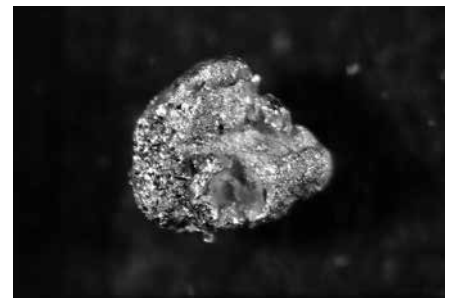


写真13 遠野市産

最後に、砂金は趣味の範囲で誰でも採集できますが、採集した場所を汚さない、釣り人の邪魔をしない、地区民に迷惑をかけないなど、ルールやマナーを守って楽しんでください。

(掲載した砂金について) 掲載した砂金の大きさは、写真8(縦長約3mm)を除いて0.5~1mmです。

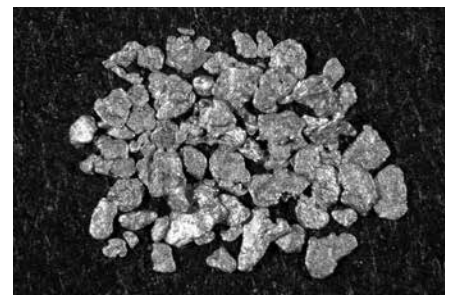


写真14 一関市花泉町産
(北上山地起源の砂礫層から産出)

■テーマ展

絵画でたどる 19世紀岩手の風景

会期 平成29年3月18日(土)～5月7日(日) 会場 特別展示室

今年は慶応3年(1867)の大政奉還から150年にあたります。江戸から明治へと時代が移った19世紀は、長く続いた武士の世が終わり、岩手県が誕生し、人々の暮らしが劇的に変化した時代です。西洋の文物が流入し、鉄道が通り、日常の風景も変化しました。

今回の展覧会では、江戸の面影と明治の鼓動を伝える絵画をとおして、19世紀のふるさと岩手の風景に思いを馳せます。

第一章

旅の空 ～奥州街道をゆく～

奥州街道は、現在の国道4号線に重なる交通の大動脈です。昔も今も多くの人々が行き交い、19世紀には盛岡藩主や明治天皇も旅をしました。

奥州街道沿いには、よく知られた名所や旧跡があります。今では失われてしまったもの、忘れられてしまった場所もありますが、絵画の中に姿をとどめている風景もあります。

街道をゆく旅人が目にした風景を明治天皇巡幸時(1876年、1881年)に撮影された写真(複製)を交えて紹介します。

第二章

汽車の窓辺 ～日本鉄道沿線をゆく～

日本鉄道会社線の上野～盛岡間(後の東北本線)は明治23年(1890)に開業し、翌年青森まで延伸、全通しました。

日本画家・川口月村(1845-1904)は、日本鉄道からの依頼により一関から青森までの沿線の風景や鉄道工事の様子を写生しています。本章では、もりおか歴史文化館と青森県立郷土館が所蔵する作品と当館が所蔵する下絵を一堂に会い、岩手県分を一举に公開します。(表紙参照)

また、盛岡以北の開業頃の鉄道写真を併せて展示し、今も残る痕跡を探ります。

第一章



左上 尖斎『陸奥日記』より「末の松山」
江戸時代後期(19世紀)
岩手県立博物館所蔵

右上 「各地勝景 奥羽・北海道」より
「陸奥国二戸郡一戸村末ノ松山景」
大蔵省印刷局、明治14年(1881)
宮内庁三の丸尚蔵館所蔵

左下 浪打峠の交叉層
国指定天然記念物、一戸町一戸
2007年6月撮影



第二章



川口月村「日本鉄道陸奥地方画譜」より
「岩手県二戸郡 道地国道ヨリ線路ヲ望ム」
明治24年(1891)頃 青森県立郷土館所蔵
一戸町小鳥谷道地付近の築堤と旧奥州街道を描いた作品。
右と下の写真は同じ付近。

『各種写真』第10帖
「東京青森間鉄道第五区線中鉄橋隧道ノ写真二十枚」の内、「館橋築堤」
明治20年代(19世紀)
宮内庁書陵部所蔵

一戸町小鳥谷の築堤と国道4号線
小繋川に平糠川が流入する水路の奥に古い石組みが残る。付近は旧街道筋。
2016年12月撮影



第三章

畏敬と憧憬 ～追憶の城下町盛岡～

明治維新の後、盛岡藩の政治の中心であった盛岡城は姿を消し、城下への入口であった北上川の舟橋は明治橋へと姿を変えました。江戸の昔を懐かしみ、喪失感を埋めようとするかのように、明治期にはかつての光景を追想した作品が描かれています。

古い時代の面影は新しい時代の槌音にかき消されてゆきますが、当時を伝える絵画から、江戸と明治が交錯する19世紀盛岡の風景を読み解きます。

第四章

記憶の彼方 ～ありし日のふるさと～

みなさんが思い浮かべる故郷の風景は、どのようなものでしょうか。街の賑わい、海辺の光景、鎮守の森…心にある故郷の風景は人それぞれです。

19世紀の岩手では、油絵や写真がまだ普及しておらず、風景を描いた作品も多くありません。県内各地の当時の様子を色鮮やかに蘇らせることは出来ませんが、残された絵画から、故郷の風景の記憶をたどります。

当時の画家たちの目には、どのような風景が映っていたのでしょうか。

私たちが生きる21世紀の風景は、19世紀の風景からさらなる変貌を遂げています。そして今も日々刻々と変化し続けています。同じ場所に立っても、そこから見える風景は同じではありません。

でも、すべてが変わってしまった訳でもありません。ふだん何気なく見ている風景の中に、古い時代の痕跡は確かに残っています。まわりの風景にあらためて目を向けてみませんか。

(主任専門学芸員 齋藤里香)

第三章



狩野存信「盛岡城図」(部分)
明治41年(1908)頃
岩手県立博物館所蔵



作者不詳「盛岡市街鳥瞰図屏風」(部分)
明治20年代(19世紀) 盛岡駅前
盛岡市先人記念館所蔵

第四章



養虫山人「養虫山人絵日記」より「陸前国気仙郡今泉村 愛宕山眺望之図」
明治時代中期(19世紀後半) 長母寺所蔵
陸前高田市高田地区・今泉地区付近の描写。右に広田湾と高田松原が広がる。

《関連事業》

1 展示解説会 各回14:30～15:30 特別展示室 要入館料

①3月20日(月・祝) ②4月8日(土) ③4月22日(土) ④5月1日(月・臨時開館)

2 県博日曜講座 各回13:30～15:00 講堂 当日受付 聴講無料

①3月26日(日) 「川口月村の『奥羽寒図記』 ～日本鉄道沿線をゆく～」

講師：齋藤里香(展覧会担当学芸員)

②4月23日(日) 「徒歩の旅から汽車の旅へー福岡停車場誕生物語ー」

講師：菅原孝平氏(二戸市立二戸歴史民俗資料館長)

3 ミュージアムシアター 特別上映会「岩手の輝き LIGHT OF IWATE」

5月6日(土) 13:30～15:00 講堂 当日受付 鑑賞無料

大正12年の盛岡市内の様子を記録した無声映画を解説付きで上映します。

解説：太田幸夫氏(元盛岡劇場館長)

《ホン×モノ コラボ》【岩手県立図書館×岩手県立博物館 連携企画】

岩手県立図書館 企画展「街道を歩く」(江戸時代の街道や旅に関する古文書の展示)

2月24日(金)～5月7日(日) 県立図書館4F 企画展示コーナー

※スタンプラリー：博物館テーマ展「19世紀岩手の風景」と図書館企画展「街道を歩く」を巡って両展のスタンプを集めた方に、オリジナルペーパークラフトを差し上げます。

■事業報告

トピック展「岩手の生き物たち」回顧録

開催日 平成 28 年 3 月 1 日 (火)～平成 29 年 3 月 12 日 (日)

トピック展は、話題性のある資料や季節にちなんだ資料を取り上げる小規模な展示です。実施時期は不定期ですが、年間で通算10回以上開催しています。生物部門では1階の自然史展示室入口付近をトピック展用のスペースとして活用しており、今年度は5回のトピック展を開催して、岩手の生物を紹介しました。



楽しい雰囲気のとピック展コーナー

春から初夏にかけて岩手の山野で見られる虫たちを紹介する「春の虫」展、生息地が限られている生き物を紹介する「地域限定の生き物」展、赤とんぼなど秋の虫を特集した「トンボ、バッタ」展、海岸の生態系を紹介する「海辺の虫」展をそれぞれ約3か月間展示しました。これらに加え、夏休みの間は恒例の「カブト・クワガタ」展を開催し、同時に「岩手のセミ」も展示しました。

なんといっても人気だったのはカブト・クワガタ展でしたが、その他の展示でも、身近な昆虫を見つけて喜ぶ姿や、虫眼鏡を使って細かいところまで熱心に観察する子どもたちの姿が印象的でした。

解説パネルでは、生物の多様性や保全の話題を取り上げました。少し堅苦しい内



虫眼鏡で観察

容もありますが、展示をきっかけにして、一人でも多くの方に関心を持っていただければと考えています。

チラシやポスターを使った広報を行わなかったため、トピック展の開催に気づかなかった方も多かったと思います。当館のホームページやTwitter等でお知らせしますので、今後の開催情報にご注目ください。(学芸調査員 渡辺修二)

■解説員室より

“変身”してみませんか？

博物館2階の展示室を順路に沿って見ていくと、一番奥に楽しげな声が聞こえる『体験学習室』というお部屋があります。ここは、実際のものに触れ、身に付け、動かして、まさに“体験”しながら学べるお部屋です。機織^{はたおり}や昔のおもちゃなど様々なものが並び体験学習室から、今回は昔の人の衣装を身に着けて“変身”できるコーナーをご紹介します。

こちらのコーナーには、鎧や明治時代の夜会服をはじめ、雫石姉この仕事着、女学生の装束、町火消しや大名火消しの装束などが揃っています。特にお子さんに人気のコーナーですが、中にはそれぞれ鎧(大人から幼稚園くらいのお子さんまで3段階のサイズをご用意しております)を身に付けて、記念写真を撮られる

ご家族や、お子さん、お孫さんを連れて5月5日の端午の節句には鎧を、そして6月の第2土曜日に行われるチャグチャグ馬コの時期には、雫石姉この装束を目当てにしてなど、季節の行事をきっかけに訪れてくださる方もいらっしゃいます。

そういったみなさまの変身のお手伝いをしながらお話を聞いていると、自分で身に付け、変身していく中で、どんどん興味が湧いてくる様子が見えます。「これはどこにつけるの?」「いつも着ている服とこんなところが違うみたい」「案外重くて動きづらいなあ」「このマーク(家紋)は展示室で見たのと同じマークだね、もう一度見に戻ろうかな」などなど……

着て、触れて、楽しむことで、昔から続く行事や、歴史を身近に感じ、展示室とはまた少し違った形で知識に親しむことができる『体験学習室』で、みなさまも“変身”してみませんか?そして、どうやって着たらいいかわからないとき、不思議に思うこと、気になることがあるときなどは、お気軽にそばにいる解説員にお声掛けください。素敵な体験ができるよう、お手伝いさせていただきます!



(解説員 那須優香子)

■事業報告

第8回岩手県立博物館まつり

開催日 平成28年10月16日(日)

秋の一大イベントとしておなじみとなった「岩手県立博物館まつり」。子どもたちに博物館をより身近に感じてもらう、併せて、岩手県の文化活動を県民に紹介することを目的として企画された教育普及事業です。

今年度の開催日は、10月16日(日)でした。例年より1~2週遅い開催となったのは、希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の開催時期を考慮してのことです。10月中旬ともなれば、朝晩の寒さが強まって来る時期。天候が心配されましたが、来場者の方々の熱気が低気圧を吹き飛ばしたのか(担当者は雨男)、素晴らしい快晴に恵まれました。



開門時から長蛇の列が!

9時10分の開門時間からすでにたくさんのお子様・親御さんにお越しいただき、総合受付テント前は大行列です。

今回実施した体験コーナーは、全部で10種類。そのうち、「勾玉づくり」・「化石のレプリカづくり」・「スライム時計づくり」はそれぞれ定員30名で6回実施しましたが、各回とも満員の大盛況でした。当館特製図柄のバッジ(500個限定)



化石のレプリカづくり

を製作する「まつり限定!!缶バッジづくり」や、チャレンジマークを探してクイズに挑戦する「チャレンジ!はくぶつかん」、よろいやあねっこ装束などの着用体験ができる「変身!!昔のコスチューム」など、その他のメニューも充実。館内のいたるところから、子どもたちの歓声が聞こえました。



変身!!昔のコスチューム

屋外では、学芸員がナビゲーターとなって自然系展示をご案内する「たんけん!! 岩石園・植物園」や、同時期に開催していた特別展「スポーツ博覧会いわて」にちなんで「ニューススポーツたいけん」を実施しました。学校の授業ではなかなか行うことのないクップ、ペタンク、インディアカという3種目に挑戦した子どもたちでしたが、みんな楽しんでくれたようです。お天気にも助けられ、屋外のコーナーも大盛況でした。



ニューススポーツたいけん(クップ)

国重要文化財の曲り屋・旧佐々木家住宅では、昔ながらの笛や鉄砲であそび「たのしい!!昔あそび」を行いました。古い民家の中で、昔の子どもからつくり方・あそび方を教わる今の子どもたちから



たのしい!!昔あそび

は、「たのしい!!」との声がとても多く聞かれました。

その他の催し物として、博物館最寄りの盛岡市小鳥沢地区で受け継がれている川又神楽の公演を屋外・芝生広場にて、岩手のスポーツ史にまつわる方の手紙とそこにあるドラマを紹介する朗読イベント「Letters~手紙に見るドラマ」(演者:IBC岩手放送 水越かおる・神山浩樹 両アナウンサー)を講堂で開催しました。



民俗芸能公演(川又神楽)

さらに今回は初の試みとして、来場者全員を対象としたスタンプラリーを実施し、クリアした方へ当館特製・鯨尾兜ペーパークラフトをプレゼントしました。とても多くの方にご参加いただき、スタンプの前には長蛇の列ができました。おいそれとは作れない難易度の高いペーパークラフトですが、帰宅後も楽しんでいただけたのではないかと思います。

3,600名を超す大勢の方々にお越しいただき、今年のまつりも成功裏に終わることができました。改めて関係の皆様のご協力に感謝申し上げます。

(専門調査員 丸山浩治)



岩手県立博物館

IWATE PREFECTURAL MUSEUM

インフォメーション (2017.3.1~2017.6.30)

お知らせ

●ゴールデンウィーク臨時開館

ゴールデンウィーク期間中の5月1日(月)は臨時開館します。
4月29日(土)~5月7日(日)は無休、翌5月8日(月)は休館です。

国際博物館の日

●入館無料 5月18日(木)

5月18日(木)の国際博物館の日は入館無料となります。

●国際博物館の日記念 県博バックヤードツアー(事前申込制)

5月21日(日) 要事前申込(応募者多数の場合は抽選)

ふだんは見られない収蔵庫などを特別にご案内します。いずれかのコースを選んでお申し込みください。(各回定員10名)

①文化財レスキューコース(所要時間約80分)10:10~、②自然コース(所要時間約60分)10:20~、③文化財レスキューコース(所要時間約80分)13:10~、④歴史コース(所要時間約60分)13:20~

募集期間: 4月1日(土)~4月28日(金)必着

応募方法: 往復はがきに①参加希望コース、②住所、③参加者全員の氏名、④電話番号を明記の上、当館「県博バックヤードツアー係」宛に郵送してください。

展覧会

◆テーマ展「絵画でたどる19世紀岩手の風景」

平成29年3月18日(土)~5月7日(日) 特別展示室

江戸から明治へと時代が移り、人々の暮らしや日常の風景が劇的に変化した19世紀の岩手に思いを馳せませう。

■展示解説会 特別展示室 要入館料 各回とも14:30~15:30

①3月20日(月・祝)、②4月8日(土)、③4月22日(土)、④5月1日(月)

■関連講座 講堂 無料 各回とも13:30~15:00

県博日曜講座の欄をご覧ください。

■ホン×モノ コラボ【岩手県立図書館×岩手県立博物館 連携企画】

岩手県立図書館企画展「いわての歴史シリーズ VII 街道を歩く」

(江戸時代の街道や旅に関する古文書の展示)

2月24日(金)~5月7日(日) 県立図書館4F 企画展示コーナー

*スタンプラリー: 博物館テーマ展「19世紀岩手の風景」と図書館企画展「街道を歩く」を巡って両展のスタンプを集めた方に、オリジナルパーカーラフを差し上げます。

◆企画展「遮光器土偶の世界」

平成29年6月3日(土)~8月20日(日) 特別展示室

独特の風貌で、見るものに様々な想像をかきたてる遮光器土偶。その実態を最先端の研究により様々な角度から明らかにし、用途解明に迫る。

※詳しくは次号でご紹介します。

県博日曜講座

第2・第4日曜日 13:30~15:00 当日受付 聴講無料

当館学芸員等が岩手の文化や歴史、自然について解説します。

*展覧会関連講座

3月12日「絵馬の世界~東北の絵馬を訪ねて~」近藤良子(当館学芸員)

*3月26日「川口月村の『奥羽寒図記』~日本鉄道沿線をゆく~」

齋藤里香(当館学芸員)

4月9日「魅力的な八本脚の生き物・蜘蛛」原田祐参(当館学芸員)

*4月23日「徒歩の旅から汽車の旅へー福岡停車場誕生物語ー」

菅原孝平氏(二戸市立二戸歴史民俗資料館館長)

5月14日「生命史をひも解く-デボン紀・石炭紀-」望月真史(当館学芸員)

5月28日「盛岡藩の武士たち」原田祐参(当館学芸員)

6月11日「祈りに見る動物たち」近藤良子(当館学芸員)

*6月25日「遮光器土偶の使い方」金子昭彦(当館学芸員)

ゴールデンウィーク スペシャルイベント

①明治気分で大変身! ミニプラザ 要入館料 当日受付 小学生向け

4月29日(土)・30日(日) 両日 10:00~12:00/13:00~16:00

②ミニSLに乗りこえろ! 芝生広場 無料 当日受付 幼児~小学生向け

5月4日(木)・5日(金) 運行時間 10:00~16:00

ミニSLに乗って出発行進! 芝生広場をミニSLが走ります。

(雨天時は館内でミニ電車を運行 要入館料)

③走れ! 蒸気機関車&新幹線 グランドホール 要入館料 見学随時

5月4日(木)・5日(金) 運転時間 10:00~16:00

Nゲージ鉄道模型の展示・運転です。Nゲージ車両両持込み大歓迎!

④ミュージアムシアター 特別上映会「岩手の輝き LIGHT OF IWATE」

ミュージアムシアターの欄をご覧ください。

古文書入門講座(事前申込制)

6月3日~18日の土・日曜 全6回 10:00~11:30

江戸時代の寺子屋教科書『子供早学問』、寺子屋規則『書館定』、『平泉往来』などを、基本的になくすし字を確認しながら読みすすめていきます。

講師: 当館学芸員

定員: 30名 ※要事前申込(応募者多数の場合は抽選)

対象: 一般・高校生以上の学生(初めて古文書を学ぶ方)

募集期間: 5月9日(火)~5月26日(金)必着

応募方法: 往復はがきに①住所、②氏名(ふりがなも)、③電話番号を明記の上、当館の「古文書入門講座係」宛に郵送してください。募集締め切り後、返信用はがきで連絡します。

観察会(事前申込制)

第73回地質観察会「野田村地層観察」(予定)

7月2日(日) 10:00~15:00 於、野田村 現地集合・解散

野田村の米田海岸で地層の観察を行います。

講師: 望月真史(当館学芸員)

定員: 20名(小学校高学年以上、要保護者承諾)

参加費: 100円(傷害保険料)

募集期間: 6月1日(木)~6月10日(土) 定員充足しだい締切

観察会の申込み方法: 往復はがきまたは電子メールで受け付けます。
詳細はお問い合わせください。

週末の催し

◆ミュージアムシアター

毎月第1土曜日(4月は第2土曜日) 13:30~15:00 講堂 当日受付

視聴無料

3月4日 3.11特集(65分/小学生~一般)

みんな生きている 3.11東日本大震災から学ぶ

地震・津波から生き延びる

4月8日 春のアニメ特集(85分/小学生~一般)

ヘレンと共に~アニー・サラパン、マザーテレサ、六千人の

ピザ、うぐいすひめ、花さき山

5月6日 「岩手の輝き LIGHT OF IWATE」(90分/一般)

大正12年の盛岡市内の様子を記録した無声映画を解説付きで

上映します。解説: 太田幸夫氏(元盛岡劇場館長)

◆チャレンジ! はくぶつかん

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

チャレンジマークをさがして はくぶつかんをたんけん!

3月11日・12日・18日・19日・20日 テーマ: 絵

4月 8日・9日・15日・16日 テーマ: 変わる

5月13日・14日・20日・21日 テーマ: 金

6月10日・11日・17日・18日 テーマ: 光

◆たいけん教室~みんなのためそう~(事前申込制)

毎週日曜日 13:00~14:30 幼児(保護者同伴)・小学生20名程度

さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみよう。

※全プログラム有料(材料費代/プログラムごとに異なります)

※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開

館時間(9:30~16:30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。1

度に3名まで予約可能です。予約状況・材料費はホームページでご確

認ください。

3月	5日	まが玉アクセサリー	2日	スライムであそぼう
	12日	化石のレプリカ	9日	手づくり万華鏡
	19日	石から絵の具をつくらう	16日	オリジナル卵をつくらう
	26日	こはくの玉づくり	23日	化石のレプリカ
5月	7日	こはくの玉づくり	4日	チャグチャグ馬コづくり
	14日	まが玉アクセサリー	11日	草花のそめもの
	21日	ばねのキツツキおもちゃ	18日	石から絵の具をつくらう
	28日	チャグチャグ馬コづくり	25日	土偶づくり

定時解説

平日~土曜日 13:30~14:30/日曜日 10:30~11:30

解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員が皆

様のご質問や解説のご希望におこたえしています。

※他の館内イベントとの兼ね合いでお休みする場合があります。

利用のご案内

■開館時間 9:30~16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)

※5月1日(月)、7月31日(月)、8月7日(月)、8月14日(月)

は臨時開館

資料整理日(9月1日~9月10日)

年末年始(12月29日~1月3日)

■入館料 一般310(140)円・学生140(70)円・高校生以下無料

()内は20名以上の団体割引料金

※5月18日(木)、11月3日(金・文化の日)は無料

※9月18日(月・敬老の日)は65歳以上の方無料

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により

入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお

持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

<p>岩手県立博物館だより</p> <p>第152号</p> <p>平成29年3月1日発行</p>	<p>編集 岩手県立博物館</p> <p>〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34</p> <p>Tel. (019)661-2831/Fax. (019)665-1214</p> <p>発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団</p> <p>〒020-0023 盛岡市内丸13-1</p> <p>Tel. (019)654-2235/Fax. (019)625-3595</p>
---------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------